令和８年度小平市立上水中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

（１）教科に関する調査

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

本校の正答率は、全国平均より 12 ポイント高く、都平均より 7 ポイント高い。また、全ての問題について全国・都の正答率を上回っている。また、全国・都では無解答率の高い、自分の考えを書いたり、説明したりする問題でも、ほとんどが答えられている。

課題

語句や表現について、辞書的な意味を覚えるだけでなく、文章中でどのような意味や働きをもつのかを文脈に即して捉え、根拠をもって説明したり、適切に使ったりする力に課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

授業の中で、文章中の語句や表現に着目し、前後の文脈から意味や働きを考える活動を継続する。また、本文中のどの言葉を根拠に考えたのかを説明させたり、語句を用いて短文を作らせたりすることで、語彙・漢字の知識を実際の文章の読み取りや表現に活用する力を育成する。

【数学】

状況の分析

本校の正答率は、全国平均より 18 ポイント高く、都平均より 13 ポイント高い。また、全ての問題について全国・都の正答率を上回っている。四分位数では、全ての値で全国及び都平均を上回っていて、特に第 1 四分位数では、全国 5 問、都 7 問に対して本校は 10 問と大きく上回っている。学習内容がしっかり定着していることが分かる。

課題

9(3)データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかを見る問題の正答率が 48.9 ポイントと唯一半分を下回っていることから、統計分野を定期的に振り返ることや、認識していることを言語化する練習が必要であることが分かる。

学校で取り組む具体的な改善策

上記 9(3)や 7(2)数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか等、説明することに慣れていないことが分かる。証明問題以外にも授業内で自分の言葉で説明する機会を増やしていく。

【英語】

状況の分析	課題
本校の３技能の正答率は，全国平均より 23 ポイント高く，話すことの正答率は，32 ポイント高い。しかし問題番号９の「日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができる」については，正答率がやや低かった。	３技能については，文章の概要を捉えることの正答率がやや低いため，短文読解の機会を増やす必要がある。話すことについては，「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す」力を一層育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

日常的な話題についての短い文章を読み，概要を捉える指導を４月から行っているので，引き続き指導していきたい。また，「話すこと」について正答率がやや低かった項目である，社会的な話題に関して聞いたことについて，考えとその理由を話す指導を２学期から実施する。既習事項を活用するコミュニケーション活動に加え，読むこと・話すことの反復練習を重ね，表現の幅を広げられるように重点的に指導していく。

【質問紙】	状況の分析	課題
	○基本的な生活面「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は、それぞれ89.4%、75.5%、91.5%で、全国平均に対して1.5ポイント、5ポイント、0.9ポイント低かった。	○基本的生活習慣の定着に向けて、生活リズムを整えることの大切さを、学級活動や保健体育科の授業、養護教諭をとおして継続的に指導する必要がある。
	○自己肯定感・日常の満足度「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は、それぞれ86.1%、92.5%で全国平均に対して2.1ポイント、1.6ポイント高かった。しかし、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は81.9%で、全国平均に対して3.5ポイント低かった。	○自己肯定感や日常生活への満足度が高いので、生徒同士や教職員との関わりを大切にしながら、安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。授業や学校行事等で「できた」「認められた」と実感できる場面を増やすとともに、生徒の意見や想いを学校生活に反映させ、学校に行くことの楽しさや充実感につなげていく。
	○特別の教科道徳「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は100%で、全国平均に対して8.7ポイント高かった。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は93.7%で、全国平均に対して1.4ポイント低かった。	○特別の教科道徳では、話し合い活動については生徒全員がその良さを実感しているので、いじめについて多面的、多角的に考える授業を充実させる。いじめがいけないことを理解するだけでなく、傍観者や被害者、加害者それぞれの立場から考え、いじめを自分事として捉える指導をしていく。
	○読書活動の充実「学校の授業時間以外に、普段、１日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に「１時間以上」と回答した生徒の割合は8.5%で、全国平均に対して0.6ポイント高かった。	○授業以外で１日１時間以上読書をしている生徒の割合が全国平均を上回り、昨年度と比較しても２ポイント上昇した。学校として継続して取り組んできた読書活動が生徒の読書習慣の定着につながったと考えられる。今後も朝読書や図書室の活用を継続し、生徒が多様な本に触れ、読書の楽しさを実感できる機会を充実させていく。
	○学級活動「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は91.5%で、全国平均に対して7ポイント高かった。	○小平市が進めている「合意形成」を意識した学級活動や話し合いの積み重ねが、生徒の対話や意思決定の力の育成につながっていると考えられる。今後も互いの意見を尊重し、よりよい解決方法を協働して見出す活動を継続していく。

学校で取り組む具体的な改善策

○保健体育の授業や保健だよりを通じて継続的に指導し、生徒の基本的な生活面を整えることへの意欲を高める。また、校内生活目標に時間を守ることに関するものを含めることで、学校全体で生徒の生活の質の向上を目指す。

○読書の重要性について全校集会などの機会を活用して生徒に伝えたり、図書室の授業で有効的に利用することができる授業を計画したりして、読書活動を全校的に推進する。

○特別の教科　道徳の授業については、いじめに関する授業を各学期に１回確実に実施し、いじめを許さない風土を継続的に築いていく。